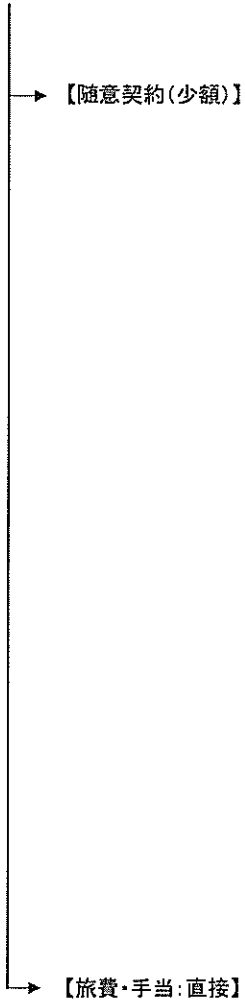


行政事業レビューシート (内閣府)

予算事業名	科学の役割についての普及・啓発		事業開始年度	昭和		作成責任者
担当部局庁	日本学術会議事務局		担当課室	企画課 参事官(審議第2担当)		影山 洋一 古西 真
会計区分	一般会計		上位政策	科学に関する重要事項の審議等		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	日本学術会議法		関係する計画、 通知等			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に、3行程度 以内)	我が国の科学者を代表するアカデミーである日本学術会議(全国約84万人の科学者の代表として選出された会員210名と連携会員約2,000名で構成)において、政府から独立した立場で科学的・学術的な研究成果を国民に還元する公開講演会等を開催することで、科学の役割について国民の認識を高め、もって科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させること。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	日本学術会議会員等が講演、パネルディスカッション等を行うことを通じ、学術の成果を国民に還元するため、日本学術会議主催公開講演会を開催する。その他、全国約84万人の科学者の代表として選出された日本学術会議会員・連携会員自らが先頭に立って科学の魅力について語り、国民の科学力増進に寄与するため、サイエンスカフェを開催する。					
実施状況	科学に対する人々の理解を増進し、かつ科学的知識に対するアクセスを公平化するため、平成21年度は、「世界のグーグル化とメディア文化財の公共的保全・活用」をはじめ、日本学術会議主催の公開講演会を5回開催した。公開講演会には、1回平均約300人の参加者があった。 また、サイエンスカフェに関しては、毎月第4金曜日に文部科学省情報ひろばにおいて開催した結果、毎回約30人の参加があった他、全国各地においても(予算:21年度まで、開催実績:計34回)開催され、国民に対する科学への理解を深めることに貢献した。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	13	10	5	3	9
	執行額	16	13	5		
	執行率	123%	130%	100%		
	総事業費(執行ベース)	16	13	5		
自己点検	支出先・ 用途の把握 水準・ 状況	日本学術会議主催で行われる公開講演会等の出演者に対する手当、謝金及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切に支給している。 また、公開講演会等に必要なポスターの印刷などについても、適切な契約手続きを行い、受注業者に対して職員が指導・監督を行える体制をとっており、予算の支出先・用途の把握については、十分な水準になっている。				
	見直しの 余地	日本学術会議主催で行われる公開講演会等を国民生活に身近で話題性の高いテーマで開催するなどの工夫を行い、ポスターの印刷なども引き続き適切な契約手続きを行う。 また、科学・技術リテラシーの増進に寄与していく。				
予算監 視の 効率化 の 見 込 み	公開講演会の開催実績を踏まえた見直しを図るべき。また、「科学者間ネットワークの構築」で行う地区会議講演会との統合も検討すべき。					
補 記						

日本学術会議事務局企画課、参事官(審議第2担当)  
5百万円

〔 学術の成果を国民に還元するための公開講演会の開催に必要な経費等 〕



- A. 民間企業(7社)  
2百万円
- B. 民間企業(2社)  
0.4百万円
- C. 民間企業(2社)  
0.4百万円
- D. 国立大学法人東京大学  
0.1百万円
- E. (株)エーヴィエインターナショナル  
0.08百万円
- F. (株)城西企業  
0.04百万円
- G. 日本ペプシコー販売(株)  
0.003百万円

- 〔 国立国会図書館支部図書館の資料購入経費 〕
- 〔 主催公開講演会のポスター等の印刷経費 〕
- 〔 主催公開講演会の立て看板用差し替え幕購入経費 〕
- 〔 主催公開講演会の会場借料 〕
- 〔 主催公開講演会AV設備オペレーター業務 〕
- 〔 主催公開講演会における清掃業務 〕
- 〔 主催公開講演会における飲料の提供業務 〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

(注) 計数は原則四捨五入によっているため、資金の流れ別紙の合計とは合致しないものがある。



